

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成29(2017)年
7月号

通巻563号
毎月23日発行

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成29年7月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷 監修
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



蓮の名所、猿賀神社にて(青森県平川市) 弘前市 石田勝利さん撮影(文・6頁)

大倭会文化講演会報告【第3回】

われわれはどこから来て、どこへ行こうとしているのか？

「この星に生き続けるための物語」

平成28(2016)年11月12日(土)
大倭拜殿にて

講師 関野吉晴氏
せきのよしはる

平等社会の条件を探る
物を溜め込まない、溜め込めない

エチオピア南部には十くらい民族がいて、皆、牛を飼っています。ところがコエグという民族だけは牛を飼えない。牛の奪い合いに勝てずに、エチオピア南部からケニアのトゥルカナ湖へ流れるオモ川という大河の流域に下りて行ったのですが、ツエツエバエという牛の寄生虫を媒介するハエがいる為、そこでは牛を飼えないんです。しかし彼らはそこに生きる場所を見つけて、住めば都にしました。コエグは五百人ぐらいいて、ソルガム(モロコシ)という雑穀を栽培しています。雨季にオモ川が氾濫して上から豊かな土壌が流れてくる。エジプト文明と同じで、乾季に水が引いて肥沃な土を残すので、そこに種を蒔くだけでいい。収穫は半年後なので、その間はせいぜい頑張つて蜂蜜、魚、小動物を獲って何とか生きていく人達です。

アマゾンの狩猟民の暮らしが平等なので、アフリカの狩猟民の所にも行って見たかったです。ところがブッシュマン(サン)は国の政策で狩猟を止めさせられている。国に未だ狩猟民がいると

なると、劣った印象を与えて体裁が悪いとか、また決して劣っていないのだけど常に移動しているので税金もとれないとかで、缶詰でも何でもあげから、とにかく定住しろというわけです(笑)。

ピグミーのところはどうかと思ったら、コンゴが内戦状態になって入れなくなつた。

ちよつとシユンとして諦めていたら、二人の研究者から農耕をしている平等社会があると聞いて、彼らと一緒に二つの村に行きました。その一つがコエグでした。十五年も通っている研究者と一緒になので、言葉もわかるしすぐ仲良くなれていいんですね。

松田凡(京都文教大)さんが「ヨシは医者だ」と伝えると、伝統医がいれば僕は遠慮しますが、いなかだったので翌日から青空診療所です。行列が出来ました。僕は重篤じゃない限りなるべく薬を与えない。与えても、勿体ないからと薬をとって置いて無くしたり駄目にするので、一日分しかあげません。最初の投薬は口にはおりこんで水を飲ませ、「明日来てね」と伝える。治ってしまったら来ないのでそれでいいんですが、何日も経って「ヨシ、俺の薬どうなってるんだ?」と威張って言う奴がいるんです。それで又診ていると、何かお礼も言わないんですね(笑)。別にお金はいらぬし物が欲しいからやつてるわけじゃないけど、感謝されてないというか(笑)、感謝されないというやりのない(笑)。

例えばアンデスで診療行為をすると、卵や鶏を持って来たり、結構手がかかると羊一匹連れて来たりする。松田さんに、「一所懸命やつてるんだけど、殆ど感謝されてないみたい」と言うと、「いや、感謝はしてると思う。だけど彼らにはありがたうという言葉がないんだよ」と言われました。それが実は、彼らが平等社会だからこそ感謝

もしないのだということがわかりました。

何故か。平等社会が成り立つのに必要なのは、物を溜め込まないことです。溜め込まないというか、溜め込まない社会なんですね。

アマゾンの例で言うと、バナナは保存出来ません。肉は燻製にしてやつと一週間だし、魚も同じです。そういった社会では文明は出来ません。蓄えられる穀物が出来て初めて、溜め込めます。

コエグも、ソルガムは収穫に半年かかるし溜め込むほどではない。蜂蜜は結構長持ちしますが蓄えられない。要するに物だけじゃなくて、技術も知識も全て、出し惜しみなく出せよという社会なんです。だから私が診療するのも当然で、出し惜しみまするんじゃねえよっていう、そういう社会だとわかりました。

彼らにも物に対する所有欲ははつきりあります。これは俺のだという意識は強くて、野生の椰子の木一本に対してもある。だけど我々と違うのは、土地に対しての所有欲はない。自分のコントロール出来ないものに対して俺のだとは言わない。当然不在地主や家の賃貸はないです。又、物をたまたま二つ持っている場合、一つは使つてないから誰かが「くれよ」とか「貸してくれよ」とか言えば、出し惜しみしません。物の所有権はあるけど本当に必要な所に流れて、知識や技術も出し惜しみなく皆に行き渡るような社会です。

所有という概念は最初からあるので、僕が見てきた社会だけから言うと、原始共産制というのは当たらないと思います。

大事なことは、

集うこと、贈り物をし合うこと

コエグの村には雨季と乾季に二度行ったのです

が、二度目の時にすごく仲良くなった四十くらいの方が、到着して暫くしたら瓢箪になみなみと蜂蜜を入れて、「お前にあげる」と持って来ました。彼らにとって蜂蜜は森の精霊の贈り物で大変な貴重品なんです。お礼は何をしただいいか松田さんに相談したら、一切あげる必要ない相手もそんな期待はしてないと言われました。

ある長老に「この村で一番大切なことは何ですか?」と聞いたたら、「集うこと、集まることが大事故だ」、もう一つは「贈り物をし合うことだ」と答えました。それも価値の違う贈り物の方がいいと。同じ物を交換したら、物々交換と同じでそこで関係が切れる。

彼は蜂蜜を何故僕にくれたか。蜂蜜を貰ったままで見ると、僕の方は借りが出来ていることになってくると、彼にしたら「今はいいよ。有効に使ってくれたらいいし美味しかったら全部飲めばいい。でも何かあったら助け合おう」と、要するに、そういう関係を作りたかったわけですね。

そういう関係を「ベルモ」と言つて、彼らは村の中だけでなく牛飼いの連中との間にも一人か二人持っています。人によっては牛を一頭預けていたりもする。牛を預けて管理してもらって替わりに、ミルクはプレゼントします。それで時々牛が管理されているか見に行くのですが、その実牛飼いと一緒に過ごすことで友好を深めあっている。何かあったらお互いに助けあおうという関係、づくりをしているんです。

何重も幾重にもある強い繋がり

ベルモの他に重要な繋がりには他にもあります。まず親族の繋がり強い。もう一つはイニシエーション(通過儀礼)です。凄まじい難行苦行で、

体中に入れ墨を入れさせられたり、牛を十頭二十頭並べてその上を歩けとか、燃えてる火の中を歩けとか、色んなことをやらされます。通過儀礼をやる前に、一年か二年、同じ年齢の人達が男女別々に合宿します。年齢階梯といって、一緒に通過儀礼をうける。その人達には兄弟姉妹と同じような強い結びつきが出来る。何重にも幾重にも人の繋がりをもち、そうすることで老後の心配をしていません。

何故私達が老後の心配をするかと言うと、お金というものが出来て、平均寿命が上がって、何歳まで生きるかわからない。経済はどうなるかわからないし、幾ら溜め込んだら死ぬまでちゃんと暮らせるかわからない。その為に心配して溜め込む。ところが彼らは別に、銀行も郵便局もないし心配していない。誰かが助けてくれるだろうと。



実は、グレートジャーニーの後の一番最近の旅では、インドネシアから自分で船を造り、インドネシア人と一緒に日本列島まで四七〇〇キロの航海をしました。その旅に同行したインドネシア人は三、四十代の漁師で家の大黒柱だったので、事故があったり死ぬようなことがあればどうするんだと、奥さんやお父さん、お母さんは凄く心配しました。その時の為に保険に入ろうとしたら、保険って何？と聞かれました。インドネシア人も村や家族で助け合うのは当たり前で、保険という考えはありませんでした。

彼らは人の結び付きによって、私達は溜め込むことによって将来の安全保障をしている。その違いに過ぎないのですが、その差は大きいというか。そういう社会が、この世界には未だ残っています。

平等社会の崩れ

平等に分けることに關して、京大の山極(寿一)さんと意見が違うところですが、彼は人間に共感力があるからだと言う。しかし僕は自分が利己的ですからね(笑)、性悪説をとります。人間というのは利己的なもので、家族や仲の良い者だけに分け合いたいけど、それでは喧嘩になるからまずい。しょうがないから分けようとして上手くいったから続いってきたのだと思っています。

花と昆虫の関係と同じで、あれは契約ではなく自然と出来上がってきました。所謂共生ということですが、私達人間社会で言われている共生とは違って、契約ではなくたまたま上手くいった。というより、上手くいったグループが生き残ったんだと思います。独り占めしたいけど分けた方がいいだろうなという社会が生き残ったから、分けることが慣習化して当たり前になった、と。

ではそれが崩れたのはいつか。以前は農耕が始まってからと言っていました。ところがアマゾンの人達も焼き畑をやっているんです。でも平等社会です。だからバナナや芋は蓄えられないから平等社会だと言いましたが、原始的な農耕が始まった段階では蓄えられるほどではないからです。

一般的に穀物を作って定住が始まり、蓄えられるから文明が始まったと言われています。

ですが、日本や中東では、小麦や米の前にも既に定住は始まっています。どんぐりですね。どんぐり採集での定住社会は二千年間続いたと言われていますが、その段階で平等社会はそれ程崩れていないでしょう。やはり小麦や米が出てくると能力差や色んな理由で格差が出て来て崩れ始めるんだと思います。

千年以上前から崩れは始まっているのでしようが、大きく変わったのは産業革命以降です。物質的に貧しくとも平等な社会と、豊かで便利で快適な暮らしとどちらがいいかと言うと、物質的に豊かで平等な社会がいいですが(笑)、それはとても難しい状態になっています。

分かち合いⅡシエアを取り戻す 包摂的な社会、多様性の重視

シエアという言葉が大事だと思っていますが、今、社会ではどういう使われ方をしていますか？フォードやトヨタ、日産などの会社を使うシエアの意味は、分捕るということです。しかし本来は分かち合うという意味です。分かち合いを取り戻す社会にしなければいけない。その為にどうすればいいのか。

排斥的な社会と包摂的な社会とどちらがいいかと言えば、僕は包摂的な、人種も関係ない社会に向かうのがいいと思います。今はヘイトスピーチ等もあって、違うものを除外しろと言うことがありますが、多様性があった方が面白いじゃないかと思っています。少なくとも自然は多様性で保たれているし、多様性は重要なんです。

例えば食物で、南米が原産の野菜は沢山あります。イタリア料理に五百年前はトマトも唐辛子もありません。キムチも唐辛子無しのキムチでした。要するに唐辛子、ジャガイモ、トウモロコシ、インゲン豆、南瓜、パイナップル等かなりのものが南米原産です。

アイルランドの飢餓はジャガイモで救われました。四百年前はイギリスの植民地で、土地が痩せて寒いので飢餓が大変だったんです。ジャガイモはシベリアでも栽培出来るくらいで、アイルラン

ドでも育ちます。それでジャガイモを量産したらある時又飢饉がやって来た。ジャガイモが全滅したんです。それは何故か。

アンデスの、千種類あるジャガイモの一種類だけを持ってきたんです。一種類だけだと一つの病気がかかったら全部やられてしまいます。当時に比べ、今は二千種類ものジャガイモがあります。

アンデスでは三〇〇メートルの高度差を利用して、高さや季節によって多種類のジャガイモを栽培します。ジャガイモだけで色んな味のものが出来ます。トウモロコシはお酒の原料になり神様に対して捧げるものであって、重要な栄養源はやはりジャガイモです。芋で出来た文明はインカ文明だけです。

そのまま放っておくと根が生えちゃいますが、寒い日に広場に広げておくと夜は凍って昼間は氷が溶ける。水分とでんぷんが遊離してぶよぶよになります。野良仕事の後、皆で足で踏んで水分を絞り出すとフリーズン・ドライが出来ます。凍結乾燥のジャガイモです。ちよつと発酵臭がして違う味になりますが、彼らはそっちの方がしやしきやしきして美味しいと言います。

自然界の種の多様性を重んじることが如何に大切かということですね。

世界文明の中で

私達は便利で快適で物の多い生活を享受しながら、地球環境の負荷を沢山持っています。それを削減して解決しなきゃいけないと、皆が思っています。今の文明というのは、エジプト文明や黄河文明等の地域文明ではなく、世界文明です。特に今凄い勢いでスマホが拡がっていますから、情報皆一緒になっている。今はモンゴルの遊牧民も

携帯を使っています。

僕はアマゾンの人達とは四十年間、五世代に渡ってつきあっています。十五歳で子供、三十歳ちよつとで孫、五十歳でひ孫が出来て五世代になるわけですが、アマゾンだって四世代目はスマホや携帯を使っています。自分の村では小学校低学年しかみてくれないんで、高等教育をうけたければ寄宿舎に入って勉強します。そこで携帯かスマホがないと友達つきあいが出来ないから皆持つようになる。世界文明なんです。

今まで崩れなかった文明はありませんから、崩れる時には一気に崩れます。エネルギー、食料、環境汚染と色々問題があるけど、私達の内部の文明だけで考えていると限界がある。

その時に参考になるのは一つは歴史から学ぶことです。もう一つは、世界に三千の民族がいてそれぞれ違う文化を持っています。文化にも多様性があるわけで、その人達の考え方や物の見方、暮らしぶりを参考にするのも一つの考え方です。

メコン川を下っていた時、中国からラオスに入る所でラオスの人達が金掘りをしているのを見ました。砂金を洗うと金は重いので下に沈んで、砂がほとんど流れます。不純物が混ざっているんで、金が水銀に付着する性質を使ってバーナーで蒸発させ、金を取り出します。それを銜へ持って行き両替屋でお金に替える。その時はお正月が近かったので、彼らは正月飾りや食べ物、服等を買っていました。そして又船で帰って行く。「次いつ行くの?」と聞くと「当分行かないよ」って言うんですね。要は、彼らには必要があつて金掘りに行く。自給自足的な生活だから、食べるのに特に困らないからです。そういう社会は沢山あります。例えば太平洋の島でもそうです。真珠貝が捕れますが、本当にお金が必要な時だけ捕る。別にお

金に困っていない。これが日本の株式会社が行ったらどうなりますか? 捕り尽くしますよね。

世界の暦だつて一つじゃないんです。ペルシャのイランは四月がお正月で、東南アジアも四月にお正月のところもあるし旧正月が多い。日本だつて結構旧暦を使います。

アメリカの同時多発テロの時に、僕はたまたまエチオピアにいました。何と九月十一日がお正月で、元旦だつたんです。アフアルというイスラム教の人達と一緒にいたんですが、夜、彼らが大切に持っているラジオから、旅客機がビルに突っ込んだというニュースが飛び込んできたんですね。最初は映画のロケか冗談か何かかと思いましたが。その時、彼らに「日本人もアメリカ人に酷い目にあつたからね」と言われました。何のことかと思つたらヒロシマ、ナガサキで、この名前は世界中に知れ渡っています。

アフアルは遊牧民で山羊を二百頭ぐらい飼う十何人の大家族で暮らしています。山羊の他に駱駝や驢馬、騾馬がいて、彼らに「家畜がもつと増えたらいいですね」と言ったら、「否、これいい。これ以上いらぬ。アツラーから授かったものだから、私達は一所懸命育てるだけがいい」と言う。足を知る人達です。モンゴル人や日本人ならもつと増やしたいと思うでしょう。

何故かと考えたなら、その原因は神様です。彼らには来世があるんですね。イスラム教にはラマダンという一カ月くらい断食する期間があります。太陽が出ている間は食べちゃいけない、飲んじやいけない。唾も飲んじやいけない。

「隠れて内緒で少しぐらい水を飲んでもいいか」と尋ねると、「それは勝手だ」と彼らは言います。要は仲間同士の関係ではなく、神様と直接の関係だからです。(続く)

文責・編集部

大倭会文化行事報告

平成29年4月16日第333回

春爛漫の宇治を訪ねる

奈良市 庄野 久子



4月の文化行事先が萬福寺とあり、懐かしさから初参加を申し込む。45年前、看護学校卒業後初めて白衣を着て4年過ごした精神科の病院が黄檗山萬福寺の左手の茶畑の奥にあった。そして萬福寺へは日本の寺とは違う趣ぎに魅かれてよく行った。(この寺は1661年に中国僧の隠元禪師によって開創された。伽藍建築・文化などはすべて中国明朝様式であり、煎茶・普茶料理・隠元豆・蓮根・孟宗竹も禪師が来てから日本にもたらされたとある)

当日は快晴。京阪黄檗駅に8名が集合。歩いてすぐに、総門に着く。左右対称の建物や配置が心地いい。法堂左横の木戸を開けると八重桜が見事に咲いていた。階段を上がり昔を探してみるが墓地と民家ばかりで別世界。「戻りましょう」林修三さんの声に救われる。

売茶堂へ。いつもは閉められているが、丁度、煎茶道の祖である売茶翁(高遊外)の命日ということで煎茶道の家元らの集まりがあり開廟している

て、もう閉めるというところに遭遇。この日が、「しだれ桜の満開と重なったのは何年初めてです」とのこと!

宇治へ移動し、宇治神社参拝。関電宇治発電所からの放水が宇治川へ流れ込む様は豪快で見入った。福寿園の喫茶館で昼食と甘味を食べてから、朱塗りの朝霧橋を歩いて宇治川の左岸に渡り解散帰路に。満福の一日となった。皆様に感謝。

平成29年5月21日第334回

明石の柿本神社を訪ねて

兵庫県明石市 水島 照美



この日の目的地は、柿本神社(1620年明石城主小笠原忠政が歌聖、柿本人麻呂を祀った。万葉集に「天離る夷の長通ゆ恋ひ来れば 明石の門より大和島見ゆ」がある)。参加した3歳から70代まで老若男女11名(写真は撮影者が李章根さんのゆるいいとまり感が心地よい遠足でした。

明石駅から柿本神社が鎮座する人丸山の頂上まで、道草しながら初夏の草花の名前や面白さをおしゃべりしたり、団子虫を見つけて大騒ぎしたり、長い登り坂も楽しいものでした。

途中、宮本武蔵が作庭した枯山水があると伝わる「本松寺」に立ち寄り、敷地奥の区切られた庭を、何とか覗き見ようと有志が一生懸命爪先立ちしていました。見えなかったとのことでした。

人丸神社(柿本神社)はお宮参りの家族で賑わっており、私達はそれぞれ場所の記憶に心傾けながらのんびりすごしました。鳥居から眺める明石の海と空、そして向かいの淡路島もさわやかでした。神社の真下には子午線上に天文科学館があり、日本の標準時を示す大きな時計があります。神社をあとに歩き始めちょうど時計の前を通った時、約束していたように正午の時報が鳴り、思わずみんな「わあ〜」と歓声。ますます愉しい気持ちです。

天文科学館を下りたところに夫・水島誠のお墓があり、せっかくなからと皆さんが立ち寄り、心のこもったお供えと聖歌を歌ってくださいました。夫だけではなくその場に集う霊界の方々とも感じがして、こうして会えて遊べてうれしいねという気持ちが湧いてきて少し涙がおちりました。たくさん歩いたのでお腹はぺっこぺこ。昼食は「魚の棚」で明石の食文化に触れることとなり、長蛇の列に屈することなく名物玉子焼きの列に並び、人、美味しいお魚を求めて歩く人それぞれ自由に過ごし解散となりました。

平成29年6月25日第335回

浪速の大川めぐり

岡山県真庭市 湯浅 芳郎



6月の文化行事はいつも雨。だから美術館や屋

内行事を毎年計画している。今回は屋根の付いたガラス張りの船で大阪の歴史探訪・大川めぐり。

地下鉄淀屋橋に集合。参加者6名、すぐそばの乗船場所へ。11時20分出発。乗船したアクアライナーは、長さ28M、幅5M、高さ1・6M、定員130名。梅雨のため乗客はまばらであるが、中国の人など外国人が多く国際的な雰囲気色々な言葉が飛び交う。沢山の橋を潜り、両岸の美しい葉桜、1981年開園のバラ園、レンガ造りの落着いた建物の中央公会堂などを眺めながら遡る。行く手に明治時代創立の造幣局、ここでは今

も1円から500円までの硬貨を製造している。厳重な立入禁止がなされているが、春先の遅咲き桜の「通り抜け」が有名である。船はユーターンして大阪城の下へ。大阪城は、当初1583年、豊臣秀吉により築かれたあと、幾多の変遷を経る。城の前の京橋は、秀吉が京都への道のためかけた橋。下りは伏見から八軒屋まで三十石船が通う。坂本龍馬が颯爽と走り抜け、江戸幕府最後の將軍、徳川慶喜が一夜にして京都から江戸に逃げ延びたなど激動の歴史の交差する地点である。

途中、日曜日なので大川では、競艇のフォーやエイトがのどかに練習中。カヌーでこちらに手を振る人もいる。かつて昇ちゃんと一緒に栃木県の欽ちゃん(中野英樹さん)を訪ねて、那珂川でカヌーで遊んだことを思い出す。昇ちゃんのパドルさばきも結構サマになっていた。文化行事では常連だった昇ちゃんを偲び、ほぼ1時間の遊覧。

上陸すると、都合で乗船時間には間に合わなかった中本好子さんが待っていて食事会に参加。安く美味いレストランで最高、ビールを飲む人も飲まない人も、あれやこれや話が盛り上がった。文化行事は、訪れたその地の歴史の勉強にもなり一層愛着が強くなります。

この世の黙示録

青森県弘前市 石田 勝利

二千年もの間、読む人を悩まし続けてきた難解な「ヨハネの黙示録」がある。私も挑んで半世紀、最近、記されている内容が解りかけてきた。

その第十三章の文を要約すると「……私が見た獣はヒョウに似ており、その口はライオンの口のように、絶大な権力を与えられた。人々はその獣を拝んで言った。『だれがこの獣に匹敵し得ようか。戦うことができようか』。大言を吐き、汚しごとを語る口を与えられ、四十二ヶ月の間、活動する権威が与えられた。……』というような内容が記されている。

四十二ヶ月は、当時の月曆計算であり、現在の四年に相当する。獣に例えられる人物として、トランプ米大統領を当てはめて、この先の世界の動向を推し測ってみる。

欧州ではイスラム難民救済が反転して、キリスト教とイスラム教のいがみ合いが激しくなり、火種の元の中東ではイスラムシリア派(イラン)と周辺国のスンニ派の対立が激化するばかり。さらにイランと宿敵イスラエルの争いへと拡がり、世界を巻き込む大戦になるストーリーも考えられなくはない。アジアの大国として隆盛を誇る中国も私の見解では内乱後、チベット・ウイグル・モンゴルの各自治区が念願の独立を果たして分断されるのではない。混乱は我が国でも同様、海水温一度の上昇が、人間には十度の上昇に相当するのだから、自然災害がこれでもかとエスカレートする。私と同じ街に住む「奇跡のリンゴ」の木村秋則さんは、バカが付くほど正直者で会話の楽しい人ですが、特異な体験者でもあります。学生の頃の

帰り路で、ピタリと時間が停止したと思いきや、松の木の上に龍が出現し、「この世の終わりの期日を告げた」という。数年後、周囲の反対を押し切って無農薬、自然農法に挑む。

宇宙人との交流も始まる。船で他の惑星へも行った。船の推進力とか説明はされても理解し得ないものだった。その折、地球のカレンダーを見せてもらった機会があった。余りに残り少ないのに驚くが、昔、龍が告げた期日と一致していた。人類がこの百年余りで地球を傷つけ汚染した結果が天候不順に表れ、異変は次々と襲い続ける。

彼は、自分の使命は大地を修復することだと知ったという。その行動はささいでも、今や日本中に広がりつつある。黙示録の結末を少しでも先に延ばすように、最後の最後まで望みを捨てず、前向きに。

この話につながるかどうか……私自身の臨死体験で、生まれ変わる現場に行ってみたことがある。高熱を出した時、大きなシャボン玉の中に居る自分を確認、降り立ったのが砂漠の中。向こうに長い列をなす人達。川端で白衣を着た男の係りらしき人が、一人ずつ頭を川下へ向けて流していた。間くと、生まれ変わりの手伝い中だという。

何処の国の霊界に入ったのか、地球が失われた時、その霊界の存在やシステムの行方がどのように受け継がれて行くか、気にかかる。

表紙写真(15)

花の写真は朝が良い。静寂で何より涼しい。この日の池には女の子の口ずさむ歌声が漂う。私に気付くと振り向き「おはよう」と可愛い笑顔と一言をくれた。宿題のスケッチをチラッと見せてくれた。蓮の花と、ふつくらピンクの蕾が描かれていた。今日はいいい朝だ。

寸 莎

第125回

服部 洋平さん

運命のシナリオ

真夏のように暑く、蝉が鳴き始めた7月2日。三重県名張市に服部洋平さんを訪ねた。

10年前前、武術研究者・甲野善紀氏の著書『縁の森』等を読み、法主さんの事や大倭紫陽花邑を知り、早速教務本庁に連絡を入れ、禊会や邑の大掃除に参加されるようになった。編集部より時々『おおよまと』紙の原稿依頼もさせて頂いているので、存知の方もおられる事でしょう。

洋平さんは現在パートで10時から17時までで介護士の仕事をし、家では脳出血で倒れてから認知症を発症した父親の介助をしながら、2歳年上で自閉症の兄と暮らしている。

1977年5月、洋平さんは奈良市三条本町で祖父が営んでいた土産物屋を引き継いだ、陽気よく喋る父親の元宥(もとやす)さんとおとなしくやさしい母



親久子さんの次男として生を受けた。3歳の頃、現在の名張市桔梗が丘に引っ越す。おとなしい性格であったが中学では剣道を3年間続けた。

「今思えば筋トレをしたり、床を蹴って動く剣道と甲野先生の動きとは全然違ってましたね」。洋平さんは現在に至るまで武道や身体技法に関心を持ち、憧れている甲野先生の稽古会や合気道(氣の研究会)、野口整体等様々な研究会に参加している。多感な中学3年生の時、母親の久子さんが乳癌で帰幽。一気に白髪が増えたという。

天理大学人間学部に入學。宗教学を専攻し世界の宗教の輪郭を学んだ。「授業はそんなに真面目に受けてたわけではないですけど、天理教ではおぢば帰りのというのがあって、全国のハンセン病快復者の信者さんも来られて宿泊する話所があるんです。入学式の時に先輩に誘われてそのお世

話をするようにになりました。学生だけで切り盛りしお話を聞かせてもらったり、学祭でもハンセン病についての展示をした事もあります」

東京の多磨全生園へ奉仕活動に参加した時、差別を受け苦しい経験をされて来た当事者の方が、様々な体験をされたにも関わらず、現在の自己を「幸せ」だと受けとめられているお話を聞き、何て自分は甘っちょろい生き方をしているのかと感じた。

天理教の人達との出会いはカルチャーショックだった。家は浄土宗であるが、洋平さんが小学3年の時に母親と共に創価学会に入会。「天理教の信者さんと一緒に活動してみてもいいな」と。教義の上では異なるけれども、どの宗教も、誰かのため人の幸せを求めて、というところで通じているものがある」と感じた。

これらの経験から福祉の仕事に携わりたいと思い、北葛城郡にある特別養護老人ホームに就職。介護福祉士とケアマネジャーの資格を取得。5年9ヶ月勤めた。人に恵まれ働きやすい職場であったが、生涯現役でやれる仕事がしたいと思い整体師を目指す事にした。

中国整体推拿療法の学校に通い修了証を取得、東大阪の整骨院で働き始めた。ピーク時は一日百人の患者が来る整骨院で、推拿の技術を使う

余地は全くなく、ひたすらに親指を駆使して5時間ぶっ通しで揉みにもみ、その内親指だけで腕立て伏せも出来るようになった。びっしりと背中にも墨の入った方やら、いろんな患者さんに触れた経験は大きい。

5年3ヶ月した頃、「はたして筋肉を揉みほぐしているだけでいいのだろうか」という疑問がつのり、独立を思い立つ。

注目していた池上六朗氏(三軸修正法創始)の推薦文が記載されている『バランス活性療法』の本に出会い、研究会に参加。今までの経験をプラスして、患者さんに合わせて施術してみたいと、早速近鉄今里駅前に場所を借りる話になったところで、父親の元宥さんが倒れた。「契約直前であり、この時しかないというタイミングでした」という。

新たな独立へのチャレンジが断たれ、親との介護生活をする事になった時の心境を洋平さんは、「心の葛藤等はなかったです。決断・決心等という運命のシナリオだったのかなという運命のシナリオだっただけかなと勝手に思っています」。

真直ぐに笑顔で話して下さる洋平さんの現在の関心事はやはり、ロシア武術のシステムだそう。先祖は武士だという祖父の言葉も間違いのないかもしれない。(聞き手 李章根)

あじさい日記

6月11日 祝会。藤本宏秋さんに誘われたとのこと。兼田隆(奈良市)・濱崎加奈子(京都市)さんが初参加されました。6月15日 大倭神宮月次祭。この日は教長さんがお留守でした。が、滞りなく無事祭典を終えました。中野英樹さん(栃木県那須郡茂木町)は昇ちゃんの五十日祭を前に来邑してお参り。6月17・18日 大倭会館で「あじさいの箱」作品展。お天気も

よく、岡山県美甘から湯浅晴子さんも来て来場者は百人ほど。



作品展の後、午後5時から教長さんを祭主として中村昇次さ

東光大祭 祖霊祭 祭典のご案内

平成29年9月5日(火曜日)・旧7月15日)

午前11時30分から、東方の碑で加美さまにご挨拶。正午から、奥津齋庭において祖霊祭が行われます。祖霊祭が終わり次第、拝殿に教長さんをお迎えして東光大祭が行われます。祭典後、皆様各ご家庭の経木をお渡しします。祖霊祭のあいだ拝殿では法主様の東光大祭のご法話や紫陽花邑の記録映像等を聞いたり見たりしていただきます。

注意

祖霊祭の経木への書き込み受付は8月15日までとさせていただきます。



栗栖直樹さんが帰幽(満65歳)。大倭とは40

年の五十日祭、引き続き大倭墓地の「大倭邑人鎮魂慰霊比室城」で納骨式(分骨)。その後、大倭会館で直会が行われました。6月19日 大阪府高槻市の大倭会館、小

瑞光院の屋根掃除。6月22日 昇ちゃんの弟・健さん(神奈川県須賀市)は病中のため、奥さん(功)・長男(俊男)・長女(恭子)・次女(村木紀子)の皆さんがお骨を取りに来邑され、大倭会館泊。翌日の月次祭に参加して教長さんはじめ皆さんに挨拶を果たされました。6月23日 大倭大本宮月次祭。6月24日 午前11時から大倭会館において故矢追盛賢さんの一年祭が行われました。午後、大阪YMCAを会場に、徳永進さんやF.I.W.C.がハンセン病フォーラムを開催。6月25日 午後6時から西齋庭で邑人や近隣住人の恒例バーベキューの集いをしました。7月6日 大倭神宮月次祭。吉田唯さん(奈良市)が神宮参拝の後、来邑されました。

夜、大倭会館で邑倭の会。7月8日 大倭会館周辺のセアカゴケグモの駆除をしました。昇ちゃんは中村家のお墓に納骨されたとのこと。7月9日 祝会。坂田浩康・洋美夫妻(大阪府大東市)の初参加で自然農の話題も出ました。7月10日 日本山妙法寺の長崎・広島まで平和行脚の一行10人が大倭会館泊、有志が接待しました。大倭安宿苑では

菅原園) 6月12日 日帰り旅行で神戸動物王国、「てっちゃん工房」へ。(須加宮寮) 6月29日 青垣園と施設交流会で信貴山観光ホテルへ。(長曾根寮) 6月14日(デイ)・23日(特養) 紫陽花のお花見を楽しみました。(茂毛路園) 7月4日 「ピアノでうたおう」で七夕の飾り付けや天の川ゲームもしました。(八重垣園) 6月13日 毎年恒例、梅酒1瓶・梅ジュース4瓶を作りました。

あんない

*月次祭(大倭神宮) 8月6日(日) 午後2時より大倭神宮にて。
*大倭教立教開宣祭及び大倭神宮月次祭 8月15日(火) 午後2時より大倭神宮にて。
*大倭会主催第583回祝会 8月20日(日) 第四日曜日になります。大倭大本宮境内の清掃神事として午前9時より。なお大倭墓地清掃を午前8時から行います。
*月次祭(大本宮) 8月23日(水) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。
*東光大祭及び祖霊祭 9月5日(火) 上欄に詳細。

第336回大倭会文化行事

秋の旅行のご案内 平和を祈る場所、広島へ

日時	平成29年10月29日(日)・30日(月)
行き先	平和公園・シュモアハウス・安芸の宮島など
行程	集合を広島駅とし、貸切バスにて各所訪問、福山駅にて解散とします。
宿泊	宮島近辺の宿
費用	未定
問合せ	湯浅芳郎

携帯090-6987-5847